



高岡市議会議員

横田の

政治 SEIJI's REPORT

りぽーと



第13号

Challenge your future!

横田せいじのプロフィール

- 自己紹介 ○生年月日 昭和55年5月13日(43歳)
高岡市内生まれ、美幸町在住
- 経歴 ○趣味特技 野球、空手、登山、スキー・スノーボード、読書
○川原小学校、高岡西部中学校、高岡第一高等学校、富山県立大学工学部卒業
○平成15年 高岡市役所入庁
『都市計画課(地域交通担当)』で、万葉線やコミュニティバスなどの公共交通政策に、『総務課(危機管理室)』で、防災や国民保護などの危機管理政策及び選挙業務に、『財政課(資金、財政・調査担当)』で、予算編成や起債、決算分析などの財政政策に携わる
- 市議会等での役職 ○平成24年 高岡市役所退職
○平成25年 高岡市議会議員(初当選)
○平成29年 高岡市議会議員(2期目)
○令和3年 高岡市議会議員(3期目)
- 現役職資格等 ○総務文教常任委員会 委員
○行財政改革特別委員会 委員
○議会会派「自由民主党高岡市議会議員会」広報局長(詳細はトピックス参照)
- 全国若手議員の会会員 (2019-2020年度東北信越ブロック代表)
 - 子富嶺かん予防フクテン接種推進自治体議員連盟会員
 - 公益財団法人日本スキー連盟認定スキー検定2級
 - 神道政治連盟富山県地方議員懇談会幹事
 - 遼寧ファン倶楽部会員
 - 富山県飲食生活衛生同業組合高岡支部顧問
 - 公益財団法人高岡市体育協会理事
 - 高岡調理師会顧問
 - 高岡市スキー連盟副会長
 - 高岡市相撲連盟副会長
 - 高岡市消防団広域消防委員会委員 (平成30年度)
 - 高岡市消防団和団分団員
 - 高岡市スポーツ推進委員
 - 高岡市児童クラブ連合会常任理事
 - 茶道萬千家交交会高岡青年部会員
 - 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業運営委員会委員 (平成30年度)
 - 高岡市立西条公民館運営委員会相談役
 - 型模なせUNDOKAI実行委員会監査
 - 万葉入茶会実行委員会2021実行委員長
 - 高岡青年コミュニティ会副会長 (令和2年度)
 - 高岡職工会連所青年部会副会長兼委員理事 (令和5年度)
 - 高岡青年会議所シニアクラブ副理事長
 - 高岡青年会議所第49代理事長
 - 第3回ホームタウン実行委員長
 - 高岡カラオケクラブ会員
 - South Takaoka Gunners FC相談役
 - 南西リーグスポーツ少年団連盟大会副会長
 - 高岡西部スポーツ少年団育成会副会長
 - 高岡西部スポーツ少年団育成会要請顧問
 - 西条校区青少年輔導委員会顧問
 - 西条校区体育協議会役員
 - 西条校区社会福祉協議会顧問
 - 西条こはとキッズ運営協議会相談役
 - 西条校区民生委員推薦準備会委員
 - 西条校区運動広域管理協力会事務局員
 - 西条橋パークゴルフクラブ顧問
 - 美幸町自治会相談役
 - 美幸町高齢者見守り隊事務局局長兼会計
 - 内先神明町獅子舞保存会員
 - 高岡第一高等学校第38回生同窓会長
 - 高岡西部中学校同窓会副会長
 - 国際空手道連盟極真会館3段、審判資格
 - (株)日本体育協会公認スポーツリーダー・スポーツ少年団認定員
 - 自由民主党富山県第三選挙区支部青年局長
 - 自由民主党富山県支部連合会青年副局長代行
 - 自由民主党高岡市連合支部政治事務調査会副会長
 - 自由民主党高岡市連合支部青年局長
 - 伊達 古村真人富山後援会事務局員
 - 映画「アンサン」実行委員会副会長

最新情報はこちらから

検索 | 横田 せいじ

公式サイト
www.yokotaseiji.net/

facebook
www.facebook.com/yokotaseijikouenkai/



たかおか市議会だより

Instagram
www.instagram.com/yokotaseiji/



※議会ごとに高岡市内全戸に配布されます。

編集・発行：高岡市議会議員

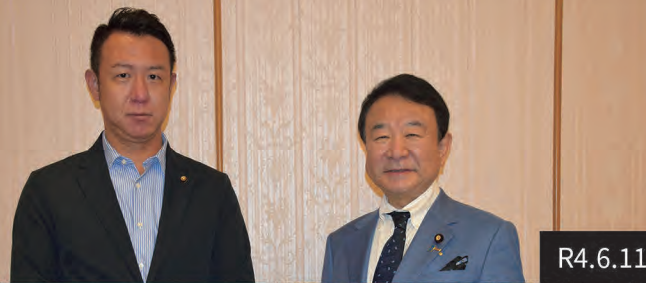
横田せいじ

〒933-0954 高岡市美幸町1-2-55

TEL：0766-25-4017

FAX：0766-25-4007

E-mail：office@yokotaseiji.net



R4.6.11



R4.7.24



R4.6.27



R4.8.14

上：参議院議員青山繁晴氏との情報交換会
 (同年7月執行の参院選比例代表における青山氏担当議員として出席)
 下：高岡商工会議所青年部「たかおか起業キッズアカデミー」セミナー
 (事業を企画した人材委員長として運営)

上：デジタル副大臣小林史明衆議院議員との意見交換会
 下：第95回富山県青年相撲選手権大会・第21回富山県小学生相撲優勝大会
 (高岡市相撲連盟副会長として準備・運営)

ごあいさつ

令和2年1月15日に日本国内で、同年3月30日に富山県内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから、3年超の月日が経過しました。

ご案内の通り、本年3月13日以降にマスクの着用は個人の判断が基本となり、5月8日からは、新型コロナウイルス感染症が、いわゆる感染症法上の「5類感染症」に位置付けられ、日増しに社会経済活動が活発化しています。

このような中、7月12日からの大雨により、市内各地で住家や農作物、林道被害などが生じたところであり、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しつつ、私自身も議会や行政等の皆さまと連携しながらその実現と、将来に向けた災害に強いまちづくりに尽力する所存です。

一方、社会と同様に、政治もまた変化を続けています。

前回の活動報告書第12号では、一昨年秋の市議会改選後における会派編成の一連の経過と私の考えを明らかにしましたが、改選から1年を迎えた昨年秋に大きな動きがありました。それは、再び自民系会派を統合しようとする動きです。

ここで、改めて市議会改選後の会派編成時における私の考えと行動を申し上げますが、私は「副議長」の就任を他会派・他者にお譲りし、同じ自民党員同士が対立を続けるべきでないと主張しました。その考えは一切変わらず、今も持ち続けています。

従って、昨年秋に再び統合の話が出た時も、私は、「統合すべき。ただ、行政・市長の応援を基本としながらも、時には行政の執行や提出議案に対して意見可能であることを確認すべき。そうしないと、すぐに会派が再分裂しかねない。」との主張をしました。なぜなら、地方自治体は首長と議会議員の両方を住民が直接選挙で選ぶ「二元代表制」であること。そして、議会は首長と共に住民を代表する対等の機関として、地方自治体の方針を決定(議決)し、その執行を監視し、また積極的な政策提言を通して政策形成の場となるべきものであって、発言及び行動する権利の全てを捨ててまで会派合流を行うことは、議員・議会の職責放棄となるためです。

結果的には、私が所属する自由民主党高岡市議会議員会と、自由民主党未来創政会の会派内に様々な意見があり、両会派代表の協議で折り合いがつかず、統合は見送りとなりましたが、この結果は当然とも言えます。なぜなら、一昨年秋からの1年間、統合に向けた努力や調整、根回しも無く、その間に行われた参院選を含めて、市長と自民



R4.9.12



R4.12.26



R4.10.16



R5.2.25

上：西条校下連合自治会等で、市に対して「旧新日軽(株)北陸高岡工場跡地への企業進出等に係る諸課題への対応について」要望
(藤田連合自治会長と副市長に要望)
下：令和の万葉大茶会2022鳥取大会
(「万葉大茶会実行委員会2021」実行委員長として、2021高岡大会の参加御礼及び高岡市PRのため副市長等と参画)

上：高岡市未来政策部、教育委員会及び高岡商工会議所に対して「人財育成を通じたまちの持続的発展に向けて」提言
(高岡商工会議所青年部人財委員長として、同委員会を代表し提言)
下：第18回高岡市民体育大会スキー・スノーボード競技会及び第48回高岡市スキー選手権大会
(高岡市スキー連盟副会長として運営及び選手出場)

党との関係も修復されていない中で、12月定例会前に降って湧いたような話しであり、あまりに唐突過ぎたためです。

このような動きがありました。慣例によって12月定例会で正副議長等の議会諸役員の交代が予定されていまして、当選回数や年齢、副議長等の役職経験の時期等を考慮して、自会派所属の中川氏を議長、私横田を副議長とする案を各会派に説明及び事前のお願いに回りました。

ところがその後、私たちの会派代表で統合の交渉に当たられた方が、突如会派から単身離脱して「自民同志会」に合流され、4名となった同会派が、さらにその翌日に「自由民主党未来創政会」に合流し、当該会派名称から自由民主党の文言を外して「未来創政会」に改める動きがありました。そして、未来創政会は、本田副議長を議長に昇格させ、副議長は私横田とする案を示されました。

この時点で、議会の最大会派は12名を擁する未来創政会のみであり、それを踏まえた他会派への働きかけも行われていましたので、正副議長選挙を行えば未来創政会の案で事が決する見込みでした。

以上の経過を受け、私たちは議長選挙で中川氏が負けることを認めた上で、自会派所属議員の氏名は記載しないが、未来創政会所属議員の氏名も記載せず、「白票」とさせて欲しい旨を未来創政会にお願いしました。その理由は、副議長の就任時期を考えれば、本来は議長になれたであろう自会派所属議員の心情を思いやっていたことであり、今後の自民系会派がまとまる望みを残すためにも必要であることを申し伝えました。

この申し出に対する未来創政会の返答はノーでした。具体的には、議長本田、副議長酒井とし、正副議長の両方を当会派で取らせて頂くとの内容であり、11月30日の朝刊にその両名で決定した旨の報道がなされました。

政治は権力闘争であり、民主主義は数が力ですから、こうなることは致し方ないと考えていた矢先、坂林議長が両会派の対立回避を理由に続投を表明され、最終的には本田副議長辞職に伴う投票で私が10票、酒井氏が16票で過半数を獲得して副議長に就任されました。そしてその後、本年3月定例会の目前にまた突如動きがあり、未来創政会側から中川氏の議長就任を容認する申し出が私たち議員会側であり、同定例会最終日で坂林議長に退任頂くとともに、中川氏が高岡市議会で女性初の議長に就任され今日に至るものです。

一昨年の市長選を機に、議会会派の分裂を伴う激しい選挙戦が終わって約2年経過しましたが、これが高岡市



上：ICTを活用した議会運営に係る黒部市議会からの視察
(高岡市議会の電子化を主導した実績から、議会を代表し対応)
下：西条小学校の児童を対象とした、JA高岡青年部・女性部体験農園「米ニューケーション田」田植え作業
(JA高岡青年部西部支部員として運営)

上：美幸町自治会で、市と高岡警察署に対して「高岡市の学校跡地利用に向けた取り組みと富山県警察本部の新庁舎整備に伴う諸課題への対応について」要望(自治会相談役として要望書を作成し、会長等とともに要望)
下：国際空手道連盟極真会館中部本部富山支部主催「2023富山県空手道選手権大会」(大会顧問として参画)

議会の実情であり、今後も議会人事を巡る争いが起こる可能性は排除できません。私とすれば、初めて選挙に出馬した時から申し上げてきた通り、政局より政策本位で、今後も政治活動に邁進する所存です。

さて、ここでその「政策」について、前回の活動報告書第12号の挨拶文後段には、一昨年の11月から市議会最大会派の幹事長として様々な活動に取り組んでいると記載しましたが、その主な成果をここにご報告します。

まず、代表質問において、昨年3月定例会で、市が財政健全化緊急プログラムの終了を1年前倒しされるに当たり、市長と市民との意見交換の場を設定するとともに、次期高岡市行財政改革推進方針の中に、新たに中長期的な財政見通しや市債発行規模などの数値的な目標を盛り込む方針を引き出すなど、様々な政策提言を行い成果を挙げました。

また、議会改革検討委員会において、新型コロナ対策に係る国の通知を背景とした「議会における委員会のオンライン会議開催」と、議会への長期欠席を続けた東京都議会議員の事案を背景とした、「会議等を長期欠席した場合の報酬等条例の改正」を提案し、それぞれ検討委員会で合意形成を図りました。この件は最終的に、本年3月定例会で議員提出議案として「高岡市議会会議規則の一部を改正する規則」、「高岡市議会委員会条例の一部を改正する条例」、「高岡市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例」が上程・可決され、議会運営委員会です承された「高岡市議会オンラインによる方法で行う委員会開催要綱」と併せて、いわゆる議員立法を複数成立させました。

この他、意見書等において、昨年3月に「ロシアによるウクライナ侵略を強く非難する決議」や、同年9月に「日統一教会等による被害の防止・救済を求める意見書」を可決させるなどしました。

このように、政局より政策の考えのもとに、議会最大会派の幹事長として議会の議論を主導したところであり、今号では昨年3月の会派代表質問をはじめ、議会内外での活動をお伝えしますので、ご高覧頂ければ幸いです。

結びに、皆さまの益々のご健康とご多幸、ご活躍を祈念し、ご挨拶とします。

横田 誠二



議会活動 REPORT①

高岡市議会は年4回定例会を開催しており、全議員には提出された議案や市政一般に対して質問できる権利が与えられています。この権利をしっかりと使い、定例会で質問に立ちました。ここではその内容についてお知らせします。(詳細は横田せいじ公式HPに掲載)

令和4年3月定例会



高岡市議会3月定例会 会派代表質問
(幹事長として会派を代表して登壇・質問)

【新型コロナウイルス感染症対策について】

質問 感染拡大の第6波が到来し、未だ地域社会に多大な影響を及ぼし続ける新型コロナウイルス感染症について。当局によれば、報道にもあった、初回接種に用いたファイザー社製から、追加接種で異なる武田/モデルナ社製のワクチンを使用する「交互接種」に対する不信感もあり、2回目接種から6か月経過した人のうち、3回目接種の割合が3月3日時点で約32%とのこと。

これは、県内平均より高い接種率だが、昨今の感染状況を見ると、引き続き緊張感を持って対応に当たらねばならない。

そこで、新型コロナワクチンの3回目接種を早急に進める必要があると考えるが、市の方針を伺う。

答弁 現在、本市の主な3回目接種者は64歳以下へと移行している。10代及び20代の男性については、心臓の筋肉に炎症が起こる心筋炎等が疑われるケースがごくまれにあり、ファイザー社製ワクチンの方が武田/モデルナ社製ワクチンよりも発症報告の頻度が低い傾向にあると国から報告されている。

このことから本市では、10代及び20代の男性の方がワクチンを選択できるよう、今月27日から、18歳～29歳までの男性を対象としたファイザー社製ワクチンを用いた集団接種を実施することとしている。

今月1日に、国からファイザー社製ワクチンの追加配分の案内があり、接

種体制の見直しを進めている。今後もワクチン接種を希望する市民が1日も早く接種できる環境整備に努めていく。

質問

国の施策により福祉・介護職員の処遇改善が少しずつ進められているところだが、福祉・介護の職場では人手不足がなかなか改善されないと仄聞する中、新型コロナの感染拡大に伴い、福祉・介護サービス提供体制の確保に向けた考えは。



福祉・介護職場の様子。
人手不足の解消が求められる。

答弁

本市では、来年度から新たに、清掃や消毒などの周辺業務に、元気高齢者を活用することを検討している。

これは、専門的な介護サービスとそれ以外の周辺業務を切り分け、介護サービス事業所等に提案する「介護プランナー」をシルバー人材センターに配置し、周辺業務の担い手としてセンターの会員が、介護サービス事業所等で就労する体制を構築するもので、シルバー人材センターと連携した県内初の試みである。

本市としては、人材の裾野を拡大することで、福祉・介護職員の負担軽減及び質の向上に努めていく。

質問

高岡市民病院は第二種感染症指定医療機関として、新型コロナ対応に取り組まれており、敬意と感謝を申し上げます。来年度も、感染症に対応しながら、経営感覚を持って着実に病院事業を継続していかねばならない。

そこで、高岡市民病院の医療提供体制の確保に向けた考えと、利用及び収益増を図るための利便性向上策を伺う。

答弁

令和4年度は、新たに感染症内科を開設するほか、陰圧対応の診察室を追加するなど、感染症に対応した医療提供体制を一層強化する。

また、令和4～5年度にかけて病院情報システムを更新することとしている。更新に際し、スマホでの再診受付や後払い会計などのデジタル技術の導入を検討し、待ち時間短縮などの利便性向上を図るほか、紹介・逆紹介の推進に努め、患者数の増、ひいては収益の増に繋げていく。

【持続可能な行財政運営について】

質問

平成29年度から5か年計画で開始された財政健全化緊急プログラムについて、1年間前倒しで終了すると発表された。前高橋市政からの不断の努力を評価する。

ただ、先行きの見えない社会情勢や少子高齢化、都市圏への人口流出の劇的な改善も進めぬ状況や、今後、国からの新型コロナに関する交付金の減少があり得ることを考えれば、財政健全化はゴールなきレースと言える。当然ながら、財政健全化緊急プログラムは市役所のみが努力して達成したのではなく、市民の皆さまの辛抱も大きな要因である。プログラムが終わればその辛抱も終わると思われるのではないかと。

そこで、財政健全化緊急プログラム中に廃止・予算削減した事業などに対してどのように向き合っていくのか、今後の方針は。また、市民への説明はどのように進めていくのか、考えを伺う。

答弁

プログラム期間中に廃止や予算を削減した事業を単にそのままに戻すのではなく、昨年度策定した補助金や使用料のガイドライン等も活用しながら、施策効果を検証し、客観的証拠による立案や適正な評価を行い、費用対効果の高い施策への選択と集中、スクラップアンドビルドを基本に、未来を感じる施策を推進していきたい。

今後の取り組みを進めるに当たっては、議員はもとより、市民との情報共有のもと、理解をいただくことが必要と考えており、来年度からスタートする総合計画第4次基本計画の説明と併せて、市長の私自身と市民との意見交換の場の設定などを検討していく。

質問

今はあくまで収支均衡が取れた状態で、感染症の拡大状況やそれに係る国の交付金を含め、先行きの見通せない状況にあるので、議会及び市民に対して今後の本市財政の道筋を示した上で、市政運営に臨まれるよう求める。

そこで、財政健全化緊急プログラム終了を踏まえ、持続的に安定した健全な財政運営を継続するための中期財政見通しと、具体的な行動策を明確に示されたい。

答弁

本市の財政構造を見ると、市債残高が4年度末に1,000億円を下回る見通しがたったが、当面の間、歳出に占める公債費の割合が類似団体に比べて高い状態で推移することや、中長期的には人口減少・少子高齢化などによる市税の減少や扶助費の増加などが見込まれている。また、学校再編に伴う統合小学校整備や消防庁舎の更新といった大型の投資的事業に伴う資金需要が見込まれている。

現在、令和4年度中の策定に向けて取り組んでいる次期高岡市行財政改革推進方針の中に、新たに中長期的な財政見通しを示すとともに、市債発行規模、市債残高や基金などの数値的な指標を盛り込むことで、今後の持続可能な行財政運営のための指針としていきたい。



高岡市行財政改革推進方針 (H27年度～R4年度)。次期方針に、新たに財政見通し等が盛り込まれることとなった。

【令和4年度当初予算(案)等について】

質問

新年度当初予算の中で、「高岡を前へ進める事業」枠に着目すると、計上されたのは総額約5.7億円で、内訳として、デジタルトランスフォーメーション関連事業2億631万円、子育て・教育1億4,909万円、安全・安心8,925万円、交流・観光5,348万円、地域産業5,297万円、カーボンニュートラル推進関連事業2,000万円、歴史・文化250万円。

列挙すると、「歴史・文化」への特別枠の予算配分の少なさが際立つ。

そこで、本市が培ってきた歴史文化に対する認識・価値観をお聞かせいただきたい。また、本市が持つ歴史文化資産は、まちづくりにどのように位置づけられ、活用、そして保存継承を図られていくのか、方針を示されたい。



高岡車馬祭の様子。豊富な歴史文化資産は本市の特色・魅力である。

答弁

本市は、古代に越中国府が置かれ、中世から近世に至っては加賀前田家の統治のもと、人やモノが常に行き交う越中の一大集積地として、さらに近代以降は富山県の近代産業の先進地と

して発展してきた都市。

これらを物語る建造物や町並み、祭礼・年中行事などの歴史文化資産は、まさに「高岡らしさ」の象徴として、本市の持つ大きな強みであり、市民の大切な宝。

これまで、瑞龍寺、勝興寺などの修理をはじめ、景観整備や日本遺産ストーリーのプロモーションなどに取り組んできたところで、令和4年度においても、赤レンガ建物の利活用のための調査や、祭礼行事の保存継承など、予算を計上し、歴史文化資産の活用・保存継承に取り組むこととしている。

市民が誇りと愛着をもって、歴史文化資産を地域の魅力として育て、活用するまちづくりを着実に進めていきたい。

質問

当初予算に関連のある市役所本庁舎については、かねてより耐震性や洪水災害への対応に不安があり、我が会派からは、移転先の具体案をもって、提案もしてきた。

改めて申すが、市役所のあり方の検討に際しては、中心市街地の衰退や、過去に再開発事業で整備した「御旅屋セリオ」の利活用をはじめ、今後の人口減に伴う都市管理コスト削減を図るための都市機能集積や、地域交通の維持存続の問題を考慮すべき。また、財源確保の見通しも立てなければならない。

なお、ハード整備については、本庁舎以上に市民会館や市民体育館の整備を求める市民ニーズが高いと捉えている。

そのような中で、優先度をどうするのか。他の大型ハード整備事業を含めて、総合的・複合的に検討すべき事案であると考え。

そこで、本庁舎の整備に向けた基礎調査を実施することだが、市民会館や市民体育館等の施設整備との兼ね合いも含め、大型公共施設の基本的な方向性を示されたい。

答弁

市役所本庁舎については、建物の一部の強度不足への対応として、免震・新築・移転の3つが考えられ、比較・研究するための基礎資料が必要と考えられたことから、その作成のための調査費用を来年度当初予算案に計上した。

大型公共施設の今後のあり方や整備については、将来の人口推移や社会情勢の動向等も見据え、将来世代に過大な負担を残さないよう、中長期視点に立って、議会をはじめ市民の皆様の声聞きながら検討していきたい。



調査費用が当初予算案に計上された市役所本庁舎。これを含めた大型公共施設のあり方について、行政の速やかな的確な決断と対応が求められる。

質問

市長の市政運営の特徴として際立つのが、市民の視点を重視している点である。一方で、市民一人ひとりが本質を見極めるための視点が重要になってくる。

そのために、市民への正確な情報開示を要望するが、間もなく迎える新年度は良い機会と考えている。

これまで、市長選で示した「高岡再始動計画」や、公約「新しい高岡をつくる104の具体策」がある。さらには、市長就任後早々に作成した、「高岡を前へ進める具体策」のロードマップ、そして、新年度からは、ロードマップの要素や考え方や軌を一にする「高岡市総合計画第4次基本計画」も同時スタートとなる。

成すべき方針は十分に示されたので、今後はどう実現させて行くのか。市民への心証形成だけでなく、確実に目に見える進捗や成果を見せてこそ、

市政運営を本質的、実質的に評価できるはずである。

そこで、「高岡を前へ進める具体策のロードマップ」などの一連の計画について、透明性を伴う進行管理の必要性に関する見解を伺う。

答弁

本市の各種計画等は、いずれも各計画等の進行管理の方針に沿った手法を取りながら、分かりやすい内容で市民の皆様にお示しすることとしている。これら各計画の進行管理を通じ、「高岡を前へ進める具体策のロードマップ」に掲げる取り組みの進捗をチェックしていただきながら、ともに高岡を前へ進めていけるよう、透明性の高い行政運営に努めていく。

また、第4次基本計画のスタートに合わせ、市民の皆様との意見交換の場の設定や市民意識調査の実施、SNSの活用などを通じ、市民の皆様から意見を伺うとともに、行政の見える化にも努めていきたい。

【ひとづくりに重点をおいた子育てしやすいまちに向けて】

質問

本市が少子化及び人口減の難局に直面している現在、我々会派としても、子どもが健やかに育つ環境づくりや学校規模適正化をはじめとする教育環境の充実を図るべきと考えている。

子どもの成長過程に沿って考えた時、子どもを望む方々への支援策から、産後ケア、育児サービスの充実、そして共働きでも子育て可能な体制の整備など、各段階で講ずべき施策が考えられる。

そして、そのような中で、不妊治療の保険適用開始等の国・県の動向と、それを踏まえた市独自の施策も視野に入れた、子育て世代から支持される、子育て支援策を進めていく必要がある。

そこで、妊娠及び出産を含む、切れ目のない育児支援の充実に向けた本市の方針を伺う。

答弁

特定不妊治療に要する医療費の助成制度の対象年齢を拡充し、産後うつやワンオペ育児解消のために、産後ヘルパー派遣事業の利用期間を産後2か月までから6か月までに延長する。

また、保育料及び副食費を、第2子について所得に応じて軽減対象範囲を拡大し、医療ケア児の受入れに取り組む私立保育園等への支援を行う。これらの支援によって、高岡がこれまで以上に子どもを産み育てやすいまちと感じてもらえると考え。引き続き、ライフステージに応じた切れ目のない支援を順次展開し、その歩みを進めていきたい。

質問

続いて、学童期以降の子どもたちの育成環境について、本市は平成31年2月に「今後10年を見据えた高岡市における小中学校の基本的な方向性について」を市民に示し、それに沿って、小中学校の再編統合を順次進めることとしている。

しかしながら、私たち会派が前任期中に行った代表質問、そして当時は市議であった角田市長などが指摘した通り、6つの中学校区については明確な方針が示されていない。

このような中、国及び県の方針決定で35人学級への対応が必要となり、新年度当初予算にその関係予算が計上されている。

本件については、当然ながら、適正な教育環境は整備しなければならない。そして、子どもたちの今は二度と来ないので、適時適切に対応するこ



学校の再編統合が進む中、35人学級への適切な対応が求められる。

とが必要であり、それを阻害するものではないが、安易に施設整備を進めるのではなく、あらゆる想定のもとに、最大限の知恵と工夫、努力を尽くした上で、最善の方策を選択するよう要請する。

このことも踏まえ、新市長のもとでの、本市のあるべき教育の姿について、その方針と今後の予定を伺う。

答弁

「今後10年を見据えた高岡市における小中学校の配置について」に基づき、着実に学校の再編統合を進めていきたい。併せて、全中学校区で小中一貫教育を展開し、新しい時代に必要となる能力を培っていきたい。

一方、児童数が増加傾向にある学校では、今般の35人学級への移行に伴い、教室数の不足が見込まれる。この場合には、転用可能な特別教室を改修して、教室を確保することが基本と考えているが、転用可能な教室がない場合は、児童数の推移などを踏まえつつ、増築等も含め子どもたちが安心して学べる教育環境を確保していきたい。

なお、今回の再編対象となっていない中学校区についても、方針決定後、児童生徒数の推移などが変化してきていることから、改めて地域の方々の意見を聞くことも大切と考えており、そうした機会を設けることも検討していきたい。

【アフターコロナを見据えた地域の活性化に向けて】

質問

定住及び来訪者の双方に必要な移動手段の確保に関して伺う。

当会派では、これまでも公共交通の在り方について質問してきたところで、このような中で、新たなコミュニティ交通の一環として、昨年12月から守山地区で市民協働型地域交通システムの実証運行が開始されている。

市では、この本格導入に向けての取り組みを進めると共に、既存交通の維持・確保に向けた取り組み、そして交通不便地等を中心に地域の実情に応じた新たなコミュニティ交通のあり方について、継続的に地域の方々との意見交換を行って来られている。

一方で、地域交通は定住者のみならず、市外からの観光客等にとっても必要なものであり、アフターコロナを見据えつつ、来訪者の移動に必要な交通サービスの充実も図っていかねばならない。

そこで、今ほど申し上げたそれぞれの方々の対応を念頭に、財政健全化緊急プログラム達成後の新たなコミュニティ交通の形について、どのような構想を描いているか、見解を伺う。

答弁

本市では、鉄軌道や生活路線バスなど骨格的公共交通を維持確保しながら、それらを補完する市民協働型地域交通システムの導入を進めることで、持続可能な公共交通体系の構築を目指している。

市民協働型地域交通システムは、地域の実情に応じて柔軟な対応が可能なデマンド形式で、既存の骨格的公共交通に接続するフィーダー型交通が望ましいと考えており、このような取り組みを各地域で支援し、新たなコミュニティ交通の形を定着させていきたい。

また、新年度では、民間事業者によるオンデマンド交通システムを活用したビジネスモデル等をベースに、地域が主体となった新しい高岡型コミュニティ交通の実証運行にも取り組みを広げていきたい。

地域が主役の新しいコミュニティ交通の検討を加速し、将来的なMaaS（マース）への展開も意識しながら、骨格的公共交通を担う交通事業者との連携を強化していくことで、地域住民をはじめ、来訪者にとっても利便性の高い公共交通体系の実現に向けて取り組みを進めていく。



地域活動 REPORT ②

議員活動は、「議会内」と「議会外」での活動に大きく分けられます。
「高岡の活性化」と「住み良い地域づくり」実現のため、議会外でも様々な活動を行っています。
ここではその内容についてお知らせします。



R4.5.27

議会会派役員で、市に対して「35人学級対応に係る諸課題への対応について」要望（会派幹事長として要望書作成）



R4.5.28

自民党全国青年部長・青年局長合同会議・研修会
（自民党富山県連青年局幹事長として局長の代理で出席）



R4.5.30~31

自民党富山県連青年局中央研修



R4.7.17

高岡商工会議所青年部願い七夕事業に使用する竹の切り出し
（この他、願い短冊飾り付けや建て方など一連の事業に参画）



R4.7.3

「みんなできれいにせんまいけ大作戦2022」海岸特別清掃
（高岡市議会民生病院常任副委員長として参画）



R4.7.28~29

自民党青年局有志研修会



R4.8.1

自民党富山県連青年局執行部役員会
（県連青年局幹事長として運営）



R4.8.22

青年議員と青壮年農業者による富山県の農業を考える会
（自民党富山県連青年局とJA富山県青壮年組織協議会で実施。県連青年局幹事長として運営）



R4.9.23

令和4年度オトナのスポーツテスト
（高岡市スポーツ推進委員として運営協力）



R4.10.9

青山繁晴参議院議員を特別弁士に招いての北信越ブロック合同拉致街宣
（開催他の県連青年局幹事長として運営）



R4.10.30

高岡商工会議所青年部「たかおか起業キッズアカデミー」表彰式
（事業を企画した人財委員長として運営）



R4.11.18

自民党女性局・青年部・青年局合同北信越ブロック会議
（自民党富山県連青年局幹事長として出席）



R4.11.30

富山県建設業協会青年委員会と自民党富山県連青年局との意見交換会
（県連青年局幹事長として運営）



R4.12.8

富山看護連盟青年部と自民党富山県連青年局との意見交換会
（県連青年局幹事長として運営）



R4.12.17

自民党富山県連青年局勉強会
（県連青年局幹事長として運営）



R5.1.29

国際空手道連盟極真会館富山支部寒稽古
（同支部大会顧問として、道場生の皆さんに挨拶）



R5.2.7

自民党富山県連青年局「北方領土の日」街頭行動
（県連青年局幹事長として運営）



R5.2.18

自民党富山県連青年局・女性部合同によるトルコ・シリア大地震募金活動
（県連青年局幹事長として参画）



R5.2.25

自民党青年部・青年局、女性局合同全国大会
(自民党富山県連青年局幹事長としてオンライン出席)



R5.2.26

茶道裏千家淡交会高岡青年部令和5年度定期総会
(部員として参加)



R5.4.29

第61回呉西地区実業団相撲選手権大会
(高岡市相撲連盟副会長として運営)



R5.5.11

自民党富山県連青年局執行部役員会
(県連青年局幹事長として運営)



R5.7.2

出町ゆずる後援会主催「高岡の未来を語る会」で出町譲市議と対談
(市職員や政党・議会の政調会長の経験等から出席要請があり参加)



R5.2.26

自由民主党富山県第三選挙区支部青年局・部役員会
(青年部長として出席。役員改選に伴い青年局長に就任)



R5.6.3

高岡市立西条公民館開館10周年記念式典
(地元議員として来賓出席)



R5.6.10

「第18回高岡市民体育大会」兼「第20回わんぱく相撲高岡場所」兼「第4回わんぱく相撲女子高岡場所」
(高岡市相撲連盟副会長として運営)



R5.7.16

高岡商工会議所青年部願い七夕事業に使用する竹の切り出し



R5.7.16

自民党富山県連「青年層党員獲得キャンペーン」に係る、高岡市連による青年層市民とのまちづくりワークショップ
(有志議員として運営)



R5.3.11

高岡商工会議所青年部3月例会
(1年間、事業等を企画・運営した同期委員長及び執行部の仲間と)



R5.3.25

令和5年度内免神明町自治会観桜会事前準備
(内免神明町獅子舞保存会員として参加)



R5.6.11

自民党富山県連青年局「北朝鮮による拉致問題の解決」街頭行動
(県連青年局局長代行として参加)



R5.7.23

自民党富山県第三選挙区支部青年局・部及び女性部合同によるウクライナ支援募金活動
(第三選挙区支部青年局長として参加)



R5.7.25

議会会派役員等で、市に対して「令和5年7月12日からの大雨に係る諸課題への対応について」要望
(一部会派役員不在につき要望書作成)



R5.4.2

高岡商工会議所青年部第106回定時総会
(令和5年度は理事に就任。所属の「会員開発委員会」メンバー及び新入会員候補者と)



R5.4.14

令和5年度自民党富山県連学生部定期総会
(県連青年局幹事長として来賓出席)



R5.6.18

令和5年度高岡市児童クラブ連合会ジュニア育成指導者研修
(児童クラブ連合会常任理事として参加・修了)



R5.6.25

西条校下体育振興会第43回ビーチボール大会
(体育振興会役員及び美幸町自治会員として、運営及び選手出場)



R5.7.25

日本赤十字社富山県支部を訪問し、自民党富山県第三選挙区支部青年局・部及び女性部合同によるウクライナ支援募金活動で集めた支援金を納入
(第三選挙区支部青年局長として代表訪問・納入)



R5.7.30

高岡商工会議所青年部願い七夕事業「願い七夕の杜」建て方



トピックス REPORT③

議員として、議会内外で「議会活動」と「地域活動」を行ったことにより実現・解決した市民要望や市政課題、あるいは市内外の組織・団体への役員就任など、様々な話題（トピックス）があります。
ここではその内容についてお知らせします。

課題、要望の解決・実現

道路補修



石堤地内の道路損傷箇所を補修

街灯新設



防犯、交通安全対策のため、本郷地内に街灯を新設



交差点停止位置の見直し



以前、旧新日軽(株)北陸高岡工場の解体工事車両の通行の円滑化のため、「西部中学校前」交差点から車両停止線の位置を離して敷設替えした。その後、工事が終了したこと及び車両感知器が反応しない事案が幾度も生じたことから、再度、停止線位置を見直し

街灯新設



防犯、交通安全対策のため、長慶寺地内に街灯を新設



道路改修



交通安全、適切な雨水排水のため、四屋地内の道路を拡幅し、側溝を整備

役員就任

- 西条校下民生委員推薦準備会 委員
昨年7月、西条校下社会福祉協議会等の要請により、委員に就任
- 「全国若手議員の会」周年事業検討部会 副部長
昨年8月の総会において、副部長に就任
- 高岡市議会会派「自由民主党高岡市議会議員会」広報局長
昨年12月の会派総会において、広報局長に就任
- 高岡商工会議所青年部 理事
本年1月の定時総会において、令和5年度役員「理事」に選任
- 自由民主党富山県第三選挙区支部青年局 局長
本年2月の青年局・部役員会において、局長に就任
- 高岡市児童クラブ連合会 常任理事
本年4月の定期総会において、常任理事に選任
- 自由民主党高岡市連合支部 政務調査会副会長
昨年12月の全体役員会において常任総務に、本年5月の全体役員会において政務調査会副会長に就任
- 自由民主党富山県支部連合会青年局 局長代行
本年5月の定期総会において、局長代行に就任
- 自由民主党富山県第三選挙区支部「県西部地域における富山県教育の未来を考えるPT」 委員
本年7月に第1回会議が行われた同会議のメンバーに選出（県議を除いて、県西部6つの市から2名ずつ選出）
- 高岡市議会関連の各役職
昨年12月の高岡市議会定例会における議会諸役員交代に伴い、次の役職に就任
 - ・総務文教常任委員会 委員
 - ・行財政改革特別委員会 委員